

はじめに

「基礎基本の定着のために、効果的な他校の取組を紹介してほしい。」  
「実効性のある『学力向上プラン』があったら参考にしたいのですが。」

義務教育課では、1年間に100校以上の学校・幼稚園を訪問していますが、多くの学校で上記のような声がありました。学力向上に関するこれらの情報は、訪問校ごとに可能な限り紹介してきましたが、各学校の取組をさらに支援するため、「やまぐちっ子 学力向上だより」を創刊することとしました。

この「やまぐちっ子 学力向上だより」は、毎号1～2ページ程度とし、各学校にメールで送付することにより、全ての教職員の手に届くようお願いしています。このような方法であれば、新しい情報をタイムリーに肩のこらない形で提供することができると思っています。



提供する情報は、各学校の効果的な取組をはじめ、全国学力・学習状況調査の結果分析、結果を踏まえた学習指導上の改善点、県教委としての支援策、他県の情報等の紹介も予定しています。この「学力向上だより」を各学校の取組の充実に活用していただきたいと考えています。

厳しい結果

本年8月に、平成20年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。山口県全体の教科の結果は下のとおりです。

平均正答率

	総問題	山口県	全国	全国との比較(19年度)
小学校	62問	58.9%	61.8%	-2.9(-1.4)
中学校	95問	64.8%	64.4%	+0.4(+1.3)

※平均正答率の算出方法

国語A、国語B、算数(数学)A・算数(数学)Bの平均正答数を合計し総問題数で除した

平均正答率を全国と比べると、小学校は下回っており、その差は19年度より広がっています。

中学校は、全国平均をやや上回っているものの、その差は19年度に比べて小さくなっています。

もちろん、学校によっては改善されているところもありますが、全体としてのこのような結果については厳しく受け止めています。平均正答率とともに、正答数ごとの分布からも(小学校の結果を裏面に掲載)、厳しい結果であったことがお分かりいただけると思います。

教育力向上推進  
本部の設置

このような結果を受け、各教育委員会、各学校では、危機感をもって学力向上に向けた実効性のある取組を進める必要があります。県教委としては、各課一丸となって取組を進めるために「教育力向上推進本部」(本部長：教育長)を立ち上げ、市町教委・学校の取組を支援することとしております。

〈資料：平成20年度全国学力・学習状況調査結果〉

【小学校：正答数ごとの分布】

「知識」、「活用」のいずれの問題についても、全国の状況と比べると、正答数の多い児童の割合が低く、正答数の少ない児童の割合が高い傾向がみられる。

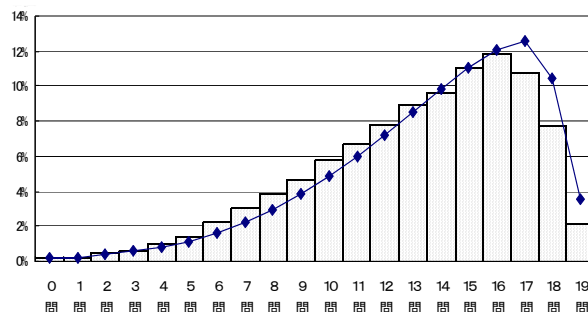
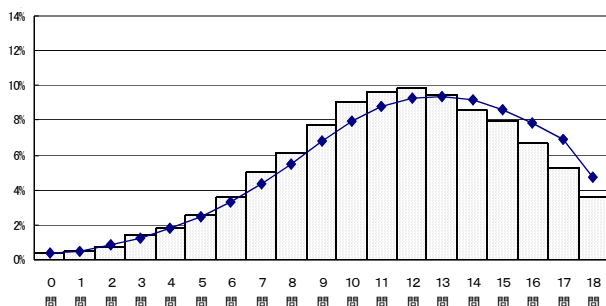
※ 以下のグラフは、横軸で児童が正答した問題数、縦軸では正答数ごとの児童の割合を示している。

○ 「知識」に関する問題



【国語A】

【算数A】



○ 「活用」に関する問題

【国語B】

【算数B】

